俳句教育通信　令和７年５月２３日　『夏が来た』　　第３３号

令和７年度が始まりました。

暦の上での「立夏」は５月５日。あっという間に夏が来た感じです。

学校訪問でこどもたちと話をすると「暑いけど、まだ季節は春」という子、「桜の花がなくなったから春じゃない」という子もいて、盛り上がります。

某学校の用務主事さんが、昇降口近くの水槽に季節感を大事にした装飾をしてくれています。晩春の象徴でもある藤棚をイメージした水槽の中をめだかが悠々と泳いでいました。

こどもたちが俳句をつくる際に「実物」が大きな力を発揮します。時期によっては、持参できる季語がないときが多々ありますが、今の時期は「若葉・青葉」が活躍します。「蔦若葉」を見せると「さつまいも？」と質問の声。なるほど、蔓でつながっていることに気付いたな、と感心します。塀や壁に付いていることを伝えると「マンションで見た」「網の塀にからまっていたのを見た」等々記憶がよみがえります。「若葉青葉の中を吹く風を『若葉風・青葉風』と言います。外でやっていることと組み合わせるといいかも」と話を広げていきます。教室では、頭や首に巻いて大騒ぎです。

フェルトや粘土でつくった柏餅もこどもたちにとっては遊び道具になります。「葉桜」や「さくらの実」も町中で目にすることができます。児童の作品です。

『通学路ハートの形つた若葉』　　『若葉をね体に付けたよやわらかい』
『若葉風スピードあがる徒競走』　　『じいちゃんは葉っぱも食べる柏もち』
『葉桜や枝から赤い実が落ちる』

こどもたちに人気のある季語は「母の日」でした。

『母の日に兄と作ったオムライス』　　『母の日のプレゼント選び３０分』
『母の日はみんながわたすラブレター』　　『笑顔さえプレゼントになる母の日よ』
『母の日もけんかしちゃった姉ちゃんと』